

「フィルムリーディング・シリーズ 5 消化管」

齋田 幸久 編集

福岡大学医学部教授・放射線医学教室

岡 崎 正 敏

玉書フィルムリーディングも好評のうちに第5巻の「消化管」が刊行される運びとなった。消化管の診断学は二重造影法に代表される手法を用いわが日本が世界をリードする診断学である。本診断学は点と点、線と線、面と面を画像と肉眼所見および病理所見を最も厳密に対比しえた診断学である。すなわち、消化管診断学は本邦から30年以上前に発信された今はやりの roentgeno-pathological correlation の原点とも言えるものである。

編集者の齋田幸久先生は、いわゆる general radiologist として“画像診断の鉄人”の称号を有する方である。編集者が最も好きな画像診断は

消化管診断であるということはあまり知られていないと思う。十数年前に編集者に“画像診断の基本は前述の点と点、線と線を読む消化管診断学だと思うがどう思うか”と質問されたことがある。編集者が最先端の機器を用いた診断学に精通している人だけに、意外な一面を垣間みた気もしたが、“私もそう思う”と答えたのが懐かしい記憶としてよみがえってくる。その後消化管診断のスタンスを他の分野にも応用し、彼の診断学がなりたっていることが編集者の刊行物から理解できるようになった。本書は、編集者のこの思い入れが随所に盛り込まれた名書と言える。すなわち、従来の粘膜面を主に

した診断学に加え粘膜外、管腔外の情報も加味した消化管診断学を念頭においた書物である。

編集者が適材適所に彼の考え方を理解して下さっている全国津々浦々の先生方を選択し、非常に的確でわかりやすく解説されている。読み始めると引きずり込まれる感があり、“止められない、止まらない”の小冊子である。消化管診断学を志す人のみならず、他の臓器の診断に従事なさっている方にもお奨めしたい玉書である。

● B5 頁184 図3 写真307
カラー写真49 2001 定価(本体
6,500円+税) 送料実費

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)